

# 大田高校 人権だより

令和3年12月23日発行

心配されていた東京オリンピック・パラリンピックも開催され、社会も少しずつ活気を取り戻す中、大田高校の人権・同和教育行事が行われました。

## <2学期の人権・同和教育HR活動報告>

### 10月7日(木) 3年生(結婚差別に学ぶ)

島根県で起こった結婚差別の事例学習を通じて、このような差別が起こった原因と、差別のない社会を目指すために私たちに必要なことは何かを考えました。

### 10月28日(木) 3年生対象人権講演会

今年は三浦成人さんを講師に招き、結婚差別の話題を中心に講演をしていただきました。三浦さんは、平成27年～29年に本校で人権講演会をしておられます。静かに、しかし自らの心の中の葛藤、差別への憤りを感じさせる激しい思いが伝わる講演会でした。以下は生徒達の感想の一部です。

(生徒の感想から) 三浦さんが頼った親方の「困っている人がいたら助けるのは当たり前だ」という言葉をとてもカッコよく感じました。こんな風に言える自信は全くないですが、心一つで変われるという言葉に胸に頑張りたいです。「差別があるのではなく、差別をする人がいる」。普通に考えたらとても当たり前の事ですが、ここから考えてみると、差別をなくすために自分達にできることがハッキリしてくる気がしました。\*\*\*今回の講演は、今までの人権学習の中で間違いなく一番心に残るものでした。実際に部落差別を受けた方の話を聞くのは始めてです。やはり一つ一つの言葉の重みが違うのか、いつも以上に考えながら聞けました。差別を受けた方の全てを理解することは難しいかもしれませんが、差別を一つでも減らすことは可能です。まずは、自分が差別をしない、これは当たり前のこと。そして、差別に気づいたら注意すること。これが一番大切です。今は、昔に比べ差別は少なくなったとは思いますが、まだ残っている差別をなくすことが、僕らがやらなければならない課題の一つだと思っています。\*\*\*差別をなくすためには、誰かがやるのではなく、自分から行動しないといけないので、自分の行動を考え直し、どうすれば差別が減っていくか考えていきたいです。\*\*\*自分の体験談を、非常に苦しそうに、吐き捨てるように叫ぶように聞かせてもらったのは初めてでした。話の中で、何度も失敗をくり返し、後悔をしたことを聞きました。まるで君達はそんなことをしないでくれといわんばかりに必死に話をしてくださいました。正直、泣きそうになりました。社会に出る前にこんなに素敵な、考えさせられるお話が聞けて本当によかったです。ありがとうございます。

いました。ぜひ後輩にも聞いて欲しいです。\*\*\*今日の講演で自分らしく生きることの大切さを学びました。もしも私が差別されている立場なら、差別についての主張をすることはできないと思います。しかし、差別されていない立場なら主張することができます。だから、私は、今後、差別をしている人がいたら、お話の中の外国人の人のように相手を注意し、差別されている人に寄り添ってあげたいと思いました。今ある差別がなくなっても、コロナ差別のように新たな差別が出てくると思いますが、周りの意見だけで判断せず、自分自身の意志を大事にして、差別のない世界になると良いなと感じました。\*\*\*私は小学生の頃から人権教育を受けていて、差別をするのはいけないことだとは分かっていたのですが、なぜそれをわざわざ学ばないといけないのかは分かりませんでした。でも、今日、初めて本当に体験された方の話を聞いて、無知がどんなに悲しいものか考えさせられ、小さい頃から人権教育を受けることがどんなに大切な事なのかわかりました。自分らしく生きるのはとても大変だけど、そうしたいです。



(2年生人権HR活動の様子)



(1年生人権HR活動の様子)

## 10月28日（木）2年生（解放令に学ぶ）

2年生は「賤称廃止令（解放令）」と「水平社宣言」を題材に、「なぜ差別は残ったのか」そして「人々が水平社宣言に込めた思いを読み取る」活動をしました。以下は生徒達の感想の一部です。

（生徒の感想から）当時の被差別部落の人々の思いや決意を今の人々がしっかりと理解し、その思いや決意を繋いでゆけるようにすべきだと思いました。今現在も続いている差別の苦しさを今日のような学習で感じることができてよかったです。\*\*\*誰にでも平等な態度で接することは誰にでもできると思うから平等な態度で接する。\*\*\*正直、部落差別などを受けている人が身近にいないので、ただ理解しておくことしかできないと思いました。ですが、そういった差別の間違いは指摘できるし、世間に発信することも、スマホ一台あればできると思います。水平社のように全国に話しかけることも、今の時代なら、世界中で手を取り合うことができるようになっていきます。なので、僕は理解して、いろんな所で発信していきたい。\*\*\*今の自分ができる行動は世の中からとか考えると小さいことだと思うけど、毎日、自分の周りの人達だけでも明るく楽しく一緒に過ごせば、自然とこのようなことは無くなっていくのかなと思いました。\*\*\*今日の授業を通じて、差別について深く考える良い機会になりました。自分の周りにいないからといって差別を他人にするのではなく、自分にも関係があって、必ずなくさないといけないのだという強い意志が持てました。まずは相手のことをよく知って、相手の気持ちや考えを尊重することから始めようと思います。\*\*\*コロナ差別でいうと、私達の住んでいる地域では感染者も少なく、身近な話ではないけれど、どんな差別でもネットの書き込みなど間接的に差別が起こりうることだと改めて思いました。家庭科で作ったシトラスリボンを見える所につけたりして、みんながいい気持ちで過ごせたらいいなと思いました。\*\*\*みんな同じ人間だということをより意識していくことが大切だと思いました。生まれた地は関係なく、また、自分を基盤として考えるのではなく、客観的に周りを見ていくことも大事だと思いました。今日受けた授業のように、伝えていくことが一番良い方法かなと思います。

## 11月4日（木）1年生（差別を見抜く力をつけよう）

1年生は、「身近な差別に気づき、差別をなくすために、私達ができることは何か考える」をテーマに、「自分ごととして考える」形で活動しました。以下は生徒達の感想の一部です。

（生徒の感想から）今ある差別や過去にあった差別を可能な限り知っておき、臨機応変な対応が求められた時の引き出しを作ることが大切だと思った。\*\*\*みんなが互いのいい所を出し合って、仲を深めることが大事。差別なんかさせない。\*\*\*ささいな理解不足や偏見を消して、相互に理解していくのが大切だと思った。自分の経験上、差別というのは知識が足りていない、もしくは完全ではなくあやふやに理解している人が多いと思っています。少しでも差別をなくすなら、しっかりと学校で

も家でも学ぶ必要があります。\*\*\*今回の活動を通じて、自分自身も無意識に差別をしてしまっていることもあるかもしれないと気づきました。小さな差別でも、されている側になった時に辛いから、いつでも相手の気持ちを考えた行動を取ることが大切だと思いました。

### 「ハンセン病」について学んでみよう

感染症として現在猛威をふるっているコロナウイルスですが、「ハンセン病」も「らい菌」というウイルスによる病気です。病気が発見された当時は治療方が確立されておらず、後遺症として手足が変形したりしたことから、病気にかかった人は差別の対象になっていました。明治時代後期には、この病気にかかった人達を強制隔離するなどの政策がとられました。その後有効な治療薬が開発されたにもかかわらず、ハンセン病にかかった人達は、私達と同じように生活することを許されず、療養所でずっと生活させられました。国に責任を求める長い裁判が続き、令和元年になってようやく国がこの政策の間違いと患者さん達への差別を認め、謝罪しました。

いくら国が責任を認めても、ハンセン病による差別に苦しんだ人々の歴史はなくなりません。このような悲劇が二度とくり返されないよう、私達は常に人権感覚を磨き、差別を見ぬく目を養う必要があると思います。

\*中学生向けパンフレット「ハンセン病の向こう側」  
(厚生労働省ウェブサイト)



### 3学期の人権・同和教育関連行事

2月3日（木）2年生人権・同和教育HR活動

発行 令和3年12月23日  
大田高校 人権・同和教育部